愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

（定價）一枚參錢一ヶ月分六錢三ヶ月拾八錢半年分參拾六錢壹ヶ年分七拾貳錢全國無遞送料郵劵代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地大日本女學會内　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

◎本號には附錄として三重縣支部職員の寫眞を添へたり

社説

◎呈佐藤愛國婦人會主事

在芝罘　小笠原長生

本篇は帝國軍艦千代田號に乘組み、清國芝罘に碇泊せらるゝ我會相談役小笠原子爵より、佐藤主事に送られたる書信なり。婦人の必讀すべき文字なれば、本欄にかゝげて會員方に示すことはしつ。

今春以來公務に忙殺さるゝ身の、一度もはか〳〵しき音信不仕候が、貴會の日に〳〵隆盛に赴きつゝあるは、愛國婦人紙上にて毎々承知仕り、異域の海上に游弋する吾等感懷一入に御座候。

閣下よ。今更改めて申すまでもなけれど、婦人の感化程一國々民全般の元氣の消長に影響を及ぼすものは候まじ。試みに歐米各國に就て之を見給へ、米國の婦人金銀財寶を愛すれば、其國の富忽ち天下に冠たるに候はずや。英國の婦人德義を重視すれば、其國の公德世界に拔んで、男兒皆紳士の體面を重んずるに候はずや。獨國の婦人冒險勇武を喜べば、其國の軍士盡く身長六尺威風堂々として、軍隊の精練勇猛全歐に振ひ、面上の刀痕は好男子の資格に於て缺く可らざる要素の一とまでなりしに候はずや。恁の如く彼の是に及ぼす勢力顯著なるは抑も何の理由ぞ。所詮は未來の國民たる少年子弟が家庭敎育に於て慈母より受けたる感染第二の天性となり、畢生復た脫却し能はざる迄に深く腦骨に刻まれたる結果の致す所にして、一に母たり姉たる人の責任とこそ覺え候へ。飜ッて我が國現時の狀態を察するに、維新の改革以來歐米の文明輸入して物質的方面一新せらるゝと共に、一利一害相伴ふの理か、帝國固有の武士道迄も社會の多數より時世後れとして擯斥せられ、何れの邦に於ても過渡時代には免るべからざる通弊とは申しながら、道義の觀念破壞せられて公德次第に衰へ、男兒の品性日に墜落して女子も亦之を矯正するの勇氣なく、天下滔々として驕奢柔弱風を成し、萬國無比と誇りつる大和魂も昨日の夢と醒めて心ある人々が深夜竊に長大息を洩すのみなりしに、先に日清戰爭あり後に北清團匪の亂起りて、出征の兵士が奉公の大義を重んじ、奮鬪力戰唯死の後れんことを恐れ、莞爾として旭日旗の下に斃れ、以て大和民族の忠勇を世界に轟かしたる健氣の擧動と同時に、沈澱せる社會は勃然として桃花洞裡の長睡より起ち、貧富老幼相率ゐ、事あるに際して忽ち燃立つ敵愾の熱情は、能く擧國一致の實を擧げ、帝國臣民の本領を發揮して前途漸く好望の氣運に向ひしに、それにも拘らず、貴婦人社會のみは依然として活氣なく、出ては公德若くは慈善事業に實際力を盡して以て社會の調和を圖らんとはせず、入ッては親く家庭を整理し良人の品位を高めて以て適君子國の紳士たるに恥ぢざる迄に到らしむること能はず、蠢乎として徒らに男兒の玩弄物たるに甘んじたるは眞に歎かはしき事の限りにて候ひき。閣下よ、譬ひ何事にも愼ましきを重んじたる帝國古來の婦道とは云へ、卑屈に流るゝを賞揚せし敎訓の候か。否、昔時の所謂武家の妻女は頗る高尙優美にして廉恥あり、勇氣あり、以て良人の人格を高めしこと幾何なるを知らず。今更喋々と女權擴張を說くを要せず、男女同權を論ずるに及ばず、予をして一例を擧げしめよ。往昔賢明の譽れ比なかりし板倉侯が幕府より重大なる役目を蒙りし時、妻と相議し其同意を得ば御受け仕らんと、衆人滿座の中に放言して憚らず。然も世間亦語り傳へて千古の美譚と爲せしは、其夫人が平素の品位も想ひやられて奧床しく、且つは婦人の權利を蹂躪せず飽まで尊重する所に日本武士道の妙味も存し、現時の英國紳士就中植民大臣チャンバーレンが公會の席に於て己が妻女の德を稱へ、大英國民の感謝を受くるに値ひすと叫べる一事に酷似し居り候はずや。必竟是れ皆婦人それ自身が品位德操を養成して社會に活動するに因るものにして、かくてこそ始めて時勢の惡風をも矯正し得るなれ。

閣下よ。予をして忌憚なく言はしめば、予は曾て我國の貴婦人社會に絕望したりき。乍併三十四年に至りて予は予が斷案の餘りに輕卒にして誤解の甚しかりしを悟り、心竊に貴婦人社會に向ッて謝せざるを得ざるに至りぬ。穩健にして强固なる愛國婦人會は實に此歲の三月始めて成立し、未だ二裘葛に過ぎざるに、本國は申す迄もなく、近くは清韓、遠くは歐米の居留地迄をも風靡して、其勢ひ破竹の如く絕大の效果を國家に捧獻しつゝあるにあらずや。時機に投合せりと云ふ勿れ。奧村女史が耳順の老軀を驅ッて日に幾回演壇に立ち、獻身的精神と烈火の如き熱情とを以て、戰死者の遺族を救護せよ是れ我等の義理なりと絕叫するを聽け、其意氣は天をも衝んとし其言は熱血を迸らして、一代人心の根抵に響き渡り、彼の前には權者なく顯官なく、一切平等日本國中の總ての女性を一團と爲さずんば止まざらんとす。嗚呼上に賢明なる總裁殿下御座まし〳〵、會長閣下以下の令夫人達が每週相會して親しく意見を吐露し、誠心誠意以て遺族の救助に盡瘁せらるゝとの軍隊に及ぼす效力は幾許大に候ぞ。清韓の荒野、さては怒濤沫立つ渤海の上に、銃を枕に假寢の夢結ぶ可憐の兵士が、遙に、貴會の音信を聞き、感淚に咽びて愈よ奮勵し居り候ぞや。（以下次號）

◎兒童發達の生理的研究（承前）

高島平三郎

兒童腦量の研究は我國ではまだ十分に發達して居りません。然しながら田口和美氏は多年熱心に調査して、次の成績を得られました。

月及び年	男兒	女兒
生後一ヶ月	—	—
二ヶ月	四二七瓦	—
三ヶ月	—	—
四ヶ月—五ヶ月	四六九	四九九
六—七	八二八	五八四、七五
八—九	六八八	五六〇
十—十二	七五五、六六	七二四、六六
生後二年	八一二、二五	八八九、五
三年—四年	一〇六六、二	七九六
五—八	一一八〇、五	九六五、八
九—一四	一二三四、〇	一一二二、四

田口氏の說によれば、男兒の腦は女兒の腦よりも速に增育し、其の差も初生の時よりは次第に增加してまゐります。然しながら兩性とも其の腦の進化機能は、歐洲人に比べますれば緩慢でありますが、是は我國の人は男女とも腦の重量が極度に達する時機が、歐洲人よりも後れて居るからであらうといふて居られます。

それで歐洲人、就中英國人の腦量と日本人の腦量とを比べて見れば、英國では、（ボイト氏に從ふ）男子にあッては三十年から四十年に至る迄の間が腦量の極度であッて、平均一三六七瓦になッて居ります。又同國の女子にあッては、十四年から二十年の間が極度で、一二四六瓦を示して居ります。然るに我國の男子は、五十年から六十年迄の間に於て腦量の極度を示して、一三八六瓦になッて居り、女子は、二十年から三十年迄の間を極度として、一二六四瓦を示して居ります。

乳齒の生える時期は、三島氏によれば、平均七ヶ月としてあります。又步行を初める時期は、平均十三ヶ月で、大顖門の閉づる時期も十三ヶ月から十四ヶ月の間にあるとしてあります。

發情期は、人類の生長發達期中でも最も著しい變化をする時でありますから、此の研究は人類を中心とする學問には實に大切なとであります。三島氏は自己の調査した結果から、我國の男兒の發情期間は、恐らくは十二歲から十六歲に至る五年間であらうというて居られます。又女子のは、十二歲を中心として、十一歲から十四歲に涉る四ヶ年であらうとの說であります。

發情期の發育の特色はいろ〳〵ありますが、特に著しいのは發育が急に盛になッて、體量に於ても、身長に於ても、頭圍、胸圍等に於ても、前後にない割合を以て增加するとであります。特に女子が男子を凌駕するのは、發情期ばかりであるといふても宜いのであります。即ち女子は十一歲に達しますれば、身長に於て五ミリ高くなり、體量に於て、六グラム重くなります。而して此の狀態、即ち男子よりも優るとが、十四歲迄續くのであります。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寄書

◎海軍下士卒家族共勵會の况狀（承前）

相談役　海軍大尉　佐々木高志

經過一班

海軍下士卒の家族愛護の目的を以て設立したる本會は創立以降茲に半歳を閲したる時に方り、聊か其經過の一班を畧記し、本會に同情を寄せられたる紳士淑女諸君、並に將に本會に同情を寄せられんとする紳士淑女諸君の劉覽に供せんと欲す。

本會は海軍士官の有志夫人の嚴正なる監督と懇切なる誘導の下に、海軍下士卒の有志家族を集め、之に裁縫等の事業を授け、一面には相當の賃金を收得して一家經濟の一部を補はしめ、一面には其起居動作言語を愼ましめ、之が品位を高むると共に質素を旨として勤儉貯蓄に勉めしむるを期し、明治三十六年一月十五日、下士卒の家族九名に横須賀海軍下士卒集會所用の蒲團を裁縫せしめたるを以て事業の嚆矢とす。然るに本會の事業は、能く下士卒の家族の希望と相一致したりと見え斯業創始の事一度下士卒の家族間に傳はるや、會員たらんことを願ふもの續出し、一月末日には廿名、二月末日には三十名、四月末日には七十名、五月末日には九十名、六月末日には實に百三十餘名に達し、尚ほ會員たらんとを願ふ者其幾百千あるを知る能はず、誠に機運の熟せるによるにあらずんば、何ぞ斯如きを得んや。實况已に斯の如しと雖も、本會工場の設備及び器具機械の整頓せざる目下の狀態は、到底是等志望者全體を收容して滿足を與ふると能はず、一機械を購入すれば隨て若干名を入會せしめ、一工場成るに及んで若干名を增加すると謂ふが如き有樣なるが故に、會員として名簿に登錄せし者は實に志望者の一小部分にして、事業の夥多なるに關せず之に當らしむる能はず、賃金の無限なるに係らず之を得しむる能はず、家族の多數をして空しく失意の裡に非運を嘆ぜしむるもの丶如し。

一　規　則

第一條　本會は海軍下士卒家族愛護の目的を以て組織す。

第二條　本會は海軍下士卒家族共勵會と稱し、之を横須賀に置く。

第三條　會員は現役海軍下士卒の家族にして品行方正なるものたるを要す。

第四條　本會に左の役員を置く

會長　一名
幹事長　一名
幹事　若干名
書記　一名

第五條　前條役員の外必要あるときは傭人を傭入れ、若くは敎員を雇聘す。

仙臺市榴岡の櫻花

第六條　會長は會員を統率し會務を總理す。

第七條　幹事長は會長を補佐し、幹事以下役員を監督し會務を整理す。

第八條　幹事は幹事長の命を受け各其の擔任の事務を掌る。

幹事事務の分擔大約左の如し

事業に關する事
會計に關する事

第九條　書記は幹事長幹事の命を受け會務を處理し、又會長の代理人として官廳との契約及び物品代價の受授を掌る。

第十條　敎員傭人は幹事の命を受け會の業務に服す。

第十一條　會長幹事長幹事は名譽職無報酬とし、書記以下は有給とす、其の給額は會長之を定む。

第十二條　入會希望者は第一號書式（書式略す）に依り願書を認め幹事に差出すへし。入會者は幹事の詮衡を經て會長之を承認し、第二號書式（書式略す）の會員證を交付す。

第十三條　會員にして不都合の行爲あるときは會長は之を除名することあるへし、此の場合に於ては會員證を返却せしむるものとす。

第十四條　會員にして其の夫が豫後備役となり、尚引續き會員たらんと欲するものは、幹事の詮衡を經て會長之を承認することあるへし。

第十五條　會員は能く本會の主旨を領し、事業に關しては幹事の指揮に服從するを要す。

第十六條　會員は起居動作言語を愼しみ、品位を高むることに心掛くへし。

第十七條　會員は特に質素を旨とし、勤儉貯蓄に勉むるを要す。

第十八條　女子の手にて爲し得べき仕事は成るへく之を本會に引受け、會員をして之に從事せしむ。

第十九條　會員は仕事に從事したる程度に應し、之に相當する賃金を受く。

第二十條　仕事の種類に依り賃金の中より若干の積立金を爲すものとす。其種類及び積立金の率は幹事合議の上之を定む。

第二十一條　積立金は之を左の費途に充つ。

一　書記、敎員、傭人の報酬及び事業上必要なる諸雜費
二　事業に要する器具機械費
三　工場建築費
四　會員の棲舍建築費

第二十二條　積立金は會計幹事の名を以て、之を確實なる銀行に預け入れ殖利を圖る。

第二十三條　積立金及び利子は一切之を會員に配當することなし。若し本會解散の場合に於ては、他の有形財產と共に舉げて之を横須賀海軍下士卒集會所に寄贈するものとす。

二　工　場

目下作業所に用ひつゝある工場は四箇所にして、裁縫部二箇所、信號旗及び和服裁縫部一箇所、雜業部一箇所なりとす。

裁縫部　本工場は目下八十餘名の會員を容る。鎭守府經理部衣糧科の監督の下に、軍服等洋服裁縫に從事しつゝあり。

信號旗及び和服裁縫部　本工場は目下二十五名の會員を容る。內十名は海軍信號旗の裁縫に、十五名は病衣、囚衣其他「ミシン」を要せざる被服裁縫に從事す。

雜業部　本工場は兵器廠砲銃庫內に在りて目下二十五名の會員を容る。其重なる事業を擧ぐれば小銃及び拳銃の分解手入、六稜火藥の手入、藥囊の補修、小銃打殼選分け、小兵器及び革具手入及び磨方等にして、當該官廳主任者の說を聞くに、從來の男工に比し其成績遙に優り、緻密にして熱心なりと謂ふ。

（以下次號）

◎宮中御兼題

貯金　高崎正風
みなもとはなほ山吹のひとしつく
國をうるほすとみのをかはも

同　鍋島直大
とほつおやの遺しゝたからつみおけと
國のためにはなにかをしまむ

同　柳原愛子
ちりひぢと思ひなすてそつみおかは
こかねの山となりぬへらなり

同　小倉文子
ひとひらのこかねの花もつみためて
御國のとみをそへんとそ思ふ

同　姉小路良子
てにもたはちりもそすると山吹の
花はかたみにつみてけるかな

同　小池道子
つみためしこかねの花も何かせん
ちらさむ時に散さゝりせは

同　津守好子
何はおきてこかねしろかねつみためよ
くにのさかえをいのる國人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

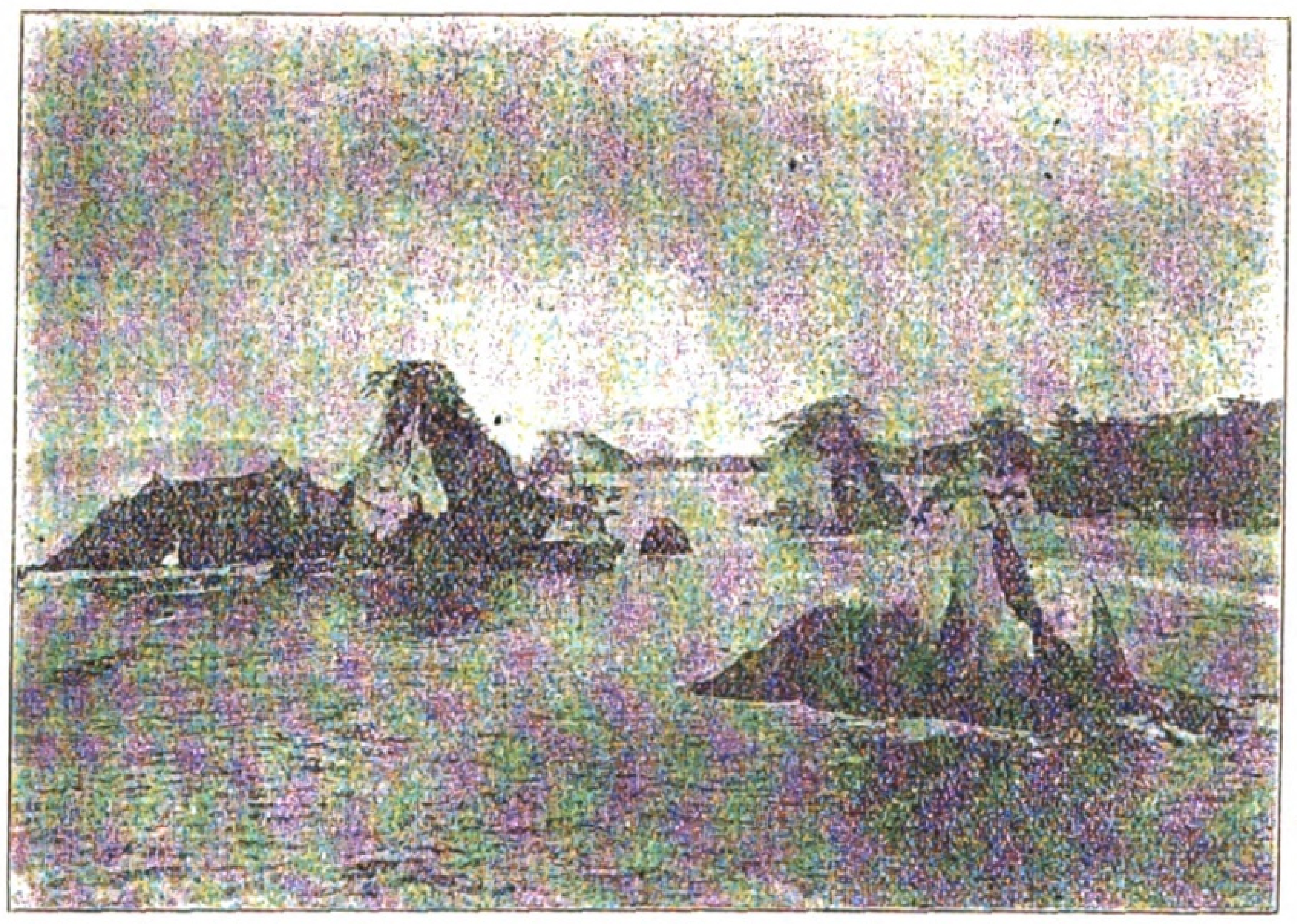
愛國婦人傳

有村蓮子の傳（承前）

評議員　下田歌子

さても、尊王を唱へ攘夷を説く壯年血氣の士は、其擧動のやゝ過劇に渉るとあれば、忽ちに其咎めは引きて藩主に及ぼすが習なるが故に、其志鋭く其氣豪にして、熱情自ら抑へ難きものは、大抵藩を脱して某國の浪士と稱するを常とせり。而して藩主も時としては是れを默許して、其が爲す所に任するも少なからざりき。然れども幕府の命令嚴かに、幕吏の追捕きびしき時は、止むなくも涙を揮うて、有爲の臣僚に死を賜ふこともありけり。さるにこの有村雄介兼武も、其數に入りぬるこそ、是非なかりけれ。島津藩には幕府に對し、如何にしても、二三の藩士を刑せざる可からざると出で來て、兼武にも其の宅につきて割腹を促されぬ。事敗れてはかくなりはてぬべき物ぞとは、かねて期したる事なれば、今更に驚きもせず、歎きもせず、唯心の中に功成り名遂げずして、先立つ不孝を母に詫びつゝ、靜に死出の門出の用意をやしけん、いと痛ましといふも愚なり。其頃藩の風習として、其が居宅に就きて死を賜ふ時は、まづ婦女少兒等を親戚の許に送りやり、丁年以上の男子等のみ殘り止まりて、割腹の用意を整ふるを例とせしなれば、今日も親戚某はまづ母及び其家人に命じて親族某の許に立退かんとを申し傳へぬ。其時蓮子は形を正して謂へるやう、「今君が此處に來たりて、我等に疾く親戚の許に赴かんとを促し給ふは、必定我が兒雄介に死を賜へるが故なるべし。抑も其居室につきて切腹せしめらるゝ時、婦女子を遠ざけらるゝ事は、女子は男子の如く理非を辨別すると明かならず、將た感情殊にふかきものなれば、心弱く泣き騷ぎて、不覺のさまを人に見せんとの恥しければとて、さてこそかゝる習慣には成りけるならめ。わが身不肖なれども、武士の妻武士の母たる甲斐には、我が兒を勵して死を潔くせんとをこそ勸めめ、何條雌々しき擧動して、煩を君たちに及ぼし候ふべき。餘人は疾く〳〵去らしめ給ふべし。わらはは如何にしても、子息の先途を見屆け候ふまでは、やはか、この家を離れ候ふべき。いかで、我が此の餘儀なき願を承引きて我が兒が死の門出を送らしめ給へ」と、いふ其の言葉の雄々しき、其擧動のおちつきたる、更に平常と異なる所なかりしかば、某も深く感心して打ちうなづきつゝ、「實に推し給ふごとく、雄介には死を賜へりしなり。女子をして此の家に在らしむるとはまことに異例にして、心一つに許さんとは後の咎めも如何なれども、刀自が健氣なる御辭に對して、いなみ申さん由もなし。さらば、兎も角も御心のまに〳〵たるべし」とありければ、蓮子大に喜びて、手づからいそぎ各室をはらひ清め、香を焚き花を挿し、割腹の間の裝飾さへ人手にかけず自らして、さて兼武に言へるやうは、「承はれば、今日は御身に死を賜ひて、此の家に割腹せしめらるゝよし、いとも畏し。同じく是れ國の爲にと、命を捧げて勞き勉めつる武士たちも、不幸なる人は、酷き幕吏の手に捕へられて、久しく牢屋の中に繋がれ、肉を削ぎ骨を碎かれ、あまさへ刑場に引きいだされて、しばり首刎ねらるゝも多しと聞くを、御身は優渥なる君の許にありて、今かく武士の格式もて、切腹仰せわたさるゝと、いと畏しともかしこく、嬉しとも嬉しき限りならずや。御身は心健くおはすれども、母に事へて孝養の心ふかゝりつれば、萬一にも、この期に及びて、母に心の引かるゝ爲露ばかりにても不覺の擧動あれば、其れこそ母は、如何ばかり口惜しくも言ひ甲斐なくも思ふべきなれ。我は武士の母なり。御身は物かは。後に殘れる二人の男兒の相並びて死に就くとありとも、義に依り國のために仆るとならば、何とて一雫の涙をも注ぐべき、母には心餘さずして、天晴れ美事の死を遂げよかし。言ふべき事は是れ迄なり。疾く〳〵行きて末期の用意せよ」とて莞爾として我が兒の面をうち視りたる、母の詞に勵まされて、兼武も心の中に落つる涙を飲み込みつゝ、いと辱き旨を答へて、さて法の如く、天晴れなる屠腹をなしけりとぞ。斯くて後、蓮子は日毎の香華を自ら手向けて、竊かに我が兒の冥福をや祈られけん、心にあまる悲みを言はぬは、言ふにいやまして、聞く者爲に嗚咽せざるは無かりき。

物變り星移りて、天地は廻轉せり。維新大政復古して、王事に勞きたる人々は、皆高官顯職に昇りぬ。蓮子が長子海江田信義ぬしは、官途につきて歷進し、其が末子有村國彥ぬしは、民間にありて實業に從事せり。蓮子は富貴榮譽二つながら全き我が兒等の榮を見て、何一つ事足らぬ事もなく、信義ぬしは、子爵を授けられて、華族にさへ列せられぬ。過ぎにし方の憂きふしは、昨日の夢と早くさめて、今の現に見るともなし。綾羅錦繡を纏ふも意の如くなるべく、玉を炊ぎ桂を焚くも



陸前松島の景

亦心のまゝなるべきに、蓮子は猶依然たる一村老嫗の形を脫せず、粗服麁菜勤儉なほよく自から守りて、却りて能く其慈孫らが奢侈に流れ奢侈に傾かんとを恐れ、常に昔日父祖が辛苦の狀を說きて懇ろに能く彼等を誡しめられきとぞ、實に得がたき賢母といふべし。齡古稀を過ぎて猶矍鑠、自から能く我が衣裳を縫ひて、更に人手を勞するとを厭はれきといへり。蓮子後に蓮壽院と稱し、八十九歲の高齡を有ちて、眠るが如く長逝せられぬ。

（完）

◎瑞西婦人の一見識

（大坂朝日新聞より轉載）

◉或る人獨逸より瑞西に向ッて旅行しける時、其上等室に一人の婦人あり、身分賤しからざるが如く、行儀最と正しく、其乘客と隔りて遙の向ふに坐せしとなむ。

◉端なく汽車中は二人の日本人と此一婦人とに爲れり。婦人は二人の日本人に對し、言葉を交へんとするの意あるが如く、又無きが如く、其樣子何となく異なれり。二人の日本人も紹介なくして猥りに婦人と言葉を交はすことの歐洲習慣にあらざるを思ひ、成るべく之を避けたり。

◉一驛二驛、汽車漸く進むに從ひ、何等かの機會よりして婦人は近く座を占め來り、慇懃に言葉を切りて曰く、見受くる處御身等は遠來の旅客なるべし、今何地へか旅し給ふと。日本人何條禮を缺くべき、乃ち其日本人たること、瑞西の某地に行くことゝを告ぐ。婦人其遠來の客たるを劬り、且曰く妾は瑞西人たり、此次驛にて早や下車すべし、唯聊か御身等に告げんとする所は他にあらず、瑞西は世界遊覽人の集る處、從ッて人氣太だ惡し、特に旅館の旅客を待つもの往々非難の聲高し、妾之を聞く毎に不快に堪へず。夫れ旅館は小さなる一國なり、旅館にして勝手を知らざる旅客に對し、往々不正の行爲を爲し、以て爲に惡聲の世界に立つは瑞西全體の恥なり、國の未開なるを公表するものなり、妾之を憂ふるや久し、今御身等の特に遠來の客なるを察し、故に端緒を求めて相語るを得たるは妾一身の爲にあらず、全くは護鄉心よりなりされば御身等今某地に行き給はゞ必ず某所に宿し給はんことを望む。御身等其鄉國に在る如く、全く心を放ちて宿り給ふを得べし、妾亦大に心を安んずるを得と。之を聞きし日本人等は婦人の一見識あるに感じ、又其厚意を謝し、次の驛にては慇懃に會釋しつゝ、早手を分ちたりと。

◉其日本人等某地に着き、彼の婦人の紹介せし所に宿せしに、果して廉にして且正當なりしと。其日本人曰く、這は好箇の土產話なり、余は日本に歸りて、知れる旅館の主人等に逐一之を語るべしと。其日本人とは誰ぞ、一人は某少佐にして一人は謹嚴なる某少將。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

家事衛生　飲食物（つゞき）

庖廚　庖廚の不潔は人々の衛生に關係少なからず、殊に賄所・割烹店・旅人宿など、多人數の食事を辨ずる處にては、其注意最も大切なり。從來我國の風習として、庖廚には天井を張らざるが普通なれども、是れは大缺點にて、梁に溜まれる塵埃、稍もすれば食物中に落ち入る虞れあり。之に反して引窓を設くる習慣は最も宜し、即ち日光を取入れ、炊烟を上昇せしめ、煮燒より出づる臭氣を此處より出して、他所に散ぜしめざるなど、種々の便あり。されば、此窓は出來得る限り大にするを可とす。

臺所の揚板の下には、通常薪・炭・糖味噌桶などを納むれども、此他に野菜の置場をも設けたし。床下は日光を遮り且つ濕氣を含むを以て、野菜の貯藏に便なり、但し時々風を通し、且つ掃除に注意すべし。又臺所の清潔を保たん爲には、十分に水を使用する便利と、屠屑物を捨つる便利とを供ふると肝要なり。又臺所を明るくし置く事は、食物の清潔を保つ上に必要なれども、日射餘りに強き時は夏分食物も腐敗し易く、此處にて働く者暑さに苦しむべし。されば、適宜に樹木を植えて、日光を遮る樣にすべし。殊に食物を蓄ふべき蠅帳などは、北側にて風通しよく、日光を遠く離るゝ場處に置くを可とす。朝夕寒暖の差甚しき場處に置く時は、單に蠅を避くるのみに止まり、食物腐敗し易くして其効少なし。

庖廚の器具には種々ありて、夫々一得一失あり。木製のものは丈夫なれども、臭氣染込み易し。漆器は清潔なれども剝脫の恐れあり。硝子器・陶磁器も破碎し易し。金屬製のものは最も丈夫にて就中銀製のもの宜しけれども、價貴くして普通に用ゐ難し。之に次ぐは錫製のものなり。其價廉にして害なく、普通に多く用ゐらるゝは鐵器なり。鐵器は金臭く腐蝕し易き故に、西洋にては釉藥を塗くもの多し。米國製造のもの最も宜し。近來我國にて之を摸造したるものあれども、其釉藥中に鉛分を含む故に、少しの酢を入るゝ時は、忽ち多量の鉛を出だし、衛生上に害あり。故に此釉藥をひきたる鐵鍋にては、決して酢煎りなどの料理を爲すべからず。

◎家計收支の實况

京都市　愛讀女報

我京都市よりは未だ一人も報知せられしお方のありませぬ處へ嗚呼がましくも出しますのはお耻かしく且收入の少なき事て恐ぢに多分掲けられましたものに比肩すべくもあまりせぬなれど下等生活の報知は先づ隗より始めよですから何卒御批評を願ひまして利用厚生の道をお敎へ下さいませよ

一家族　二人（兄と私）

收入之部　明治三十五年五月分

金貳拾四圓八錢

內譯

貳拾圓　俸給　四圓八錢　報酬合計

支出之部

金貳拾壹圓參拾八錢

內譯

衣　參圓　單衣　シャツ　靴修繕

食　五圓五拾五錢六厘　總高
三圓五拾錢　米　六拾錢六厘　野菜　三拾五錢　乾物鰹節　六拾三錢　肉類　拾六錢　砂糖　拾八錢　醤油　十三錢　調味品料（味噌、鹽、酢、胡麻胡麻油）

住　三圓十一錢四厘　總高
一圓八拾錢　家賃　壹拾一錢四厘　市稅　三拾四錢　石油　四拾六錢　炭　拾一錢　薪　九錢　雜費

衛生　一圓十錢　總高
四拾五錢　入浴料　廿錢　理髮料（兄）　三拾錢　洗濯費　八錢五厘　石鹸　六錢五厘　齒磨ブラシ

敎育　三圓十一錢　總高
一圓　授業料　廿七錢「をんな」、「文庫」代、廿四錢　萬朝報代　拾錢　敎育會費　一圓五拾錢　圖書文房具料

交際　貳圓　總高
一圓貳拾錢　茶、菓子、諸會費割　三拾錢　保險割　五拾錢　切手ハガキ狀袋

養老費　三圓　故山ノ老母へ送金

慰神身費　五十錢　散步費（兄）

貯金　一圓　郵便貯金

繰越　一圓七拾錢　六月分へ送ル

合計　貳拾四圓八錢

評曰　少額の收入にて、母への送金と郵便貯金とに其二割許を充て、尙ほ繰越金の餘裕ある、敬服の至りなり。年若き兄妹にして此の如し、富家の家計を主る老成の人々、以て鑑と爲すべし。

◎各地特殊の料理

（四八）百一漬　東京麻布　愛讀者報

秋茄子の大きなるを百一つに付き、鹽三升にて漬置き、澤庵漬に用ゐる干大根の出來し時、共に四斗樽につけ込むなり。其漬方は前に漬置きたる茄子の汁にて、糠七升をとき、此糠にて最初三側程は大根のみを漬け、其れより上に大根の間々へ茄子を程よくはさみて、順次に漬込み、一番上へ別に鹽五合程ふりかけ置くなり。是れは茄子を漬けて狎れ居る鹽と糠の甘みと配合して、味のつく仕方の樣に考ふ、大根の大小に因て遲速あれども、大抵四十日間を經て食すべし。

此漬物は、特殊か否か、保證の限りならねど、わらはの姑が、其生家の母上より敎へを受けられしもの由にて、年々我家にて實行する所なり、友人達も珍らしと云へれば、或は特殊のものかとも思ひ、試みに報らせ參らすなり。因みに云ふ、姑が生家は、當紀州藩なりとぞ、若し由來を知り給ふ方は、敎へ給へかし、何故に百一つと云ふ數を用ゐるにか、いといぶかし。

（四九）色蒟蒻の酢鹽　德島縣麻植郡桑川村　會員文子

私共田舍では、蒟蒻を自製にします、それが一寸興味のあるものですから、書いつけて見ませう。

先づ材料と器具は左の通りです。

蒟蒻粉　壹合　水　二升五合（普通は水三升ですが、これは糸蒟蒻の製法てすから、水をへらして蒟蒻を固くする必要があります。）　灰汁　貳合（鍋に灰と水とを入れて煮ます、割合は灰一升に水一升二三合とし、布でこして用ひます。）　灰吹の如く底に節のある長さ四寸位の竹筒一つ、但し底に五つ六つ錐で孔をあけて。　釜。水を十分に入れて湯を立てる。　鍋。若くは鉢二つ三つ、桶一つ

先づ桶に水を入れ其れに蒟蒻粉を入れ、手にて能く混ぜると、次第に固くなります。（鹽氣は大變に毒ですから、這入らない樣に用心せぬと出來損ひます。）其れに適當な蓋をして、三十分間放置します、其中に立湯をなし十分煮立ッた處で、前の桶から蒟蒻の水に混ぜたるものを少しづゝ鉢へわけ入れ、灰汁を割合して入れ、又赤、青など繪の具を入れ、（此繪の具は、菓子に用ゐるものと同樣です。）再び手にて能く混ぜ、用意の竹筒につめ、孔を下に向け、煮湯の中へおしおとします、即ち竹筒の孔を經て、糸になるのです。（灰汁が強くないと、湯の中で一つにかたまるとがありますが、これは、後で庖丁で細長く切れば、差支はありません。）一色毎に、別々に湯煮をせぬと色が混じます又湯煮をする時、折々杓子で交ぜないと底につきます。煮上りましたらば、玉杓子でイカキ（笊）にすくひ上げて水をたらします、一度立湯をすれば、其儘何度でも出來ます。

糸蒟蒻が出來上りたならば、酢を十分にし、醤油を少し加減して入れ、花堅魚若くは酢づけの刺身を上にかけて出します、精進ならば黑胡麻を用ゐます。

蒟蒻粉を値に二三錢求めますと、澤山に出來まして、誠に簡便て御座います、四季いつても出來ますし、之を貯へるには、石灰汁の中につけて置きますと何時までも保ちます。

（五〇）鮎の酢漬　岡山縣美作　會員某報

鮎の鮮しいものを腸を取去りまして、全形のまゝ酢に少しばかり鹽を加減して入れたるに漬け、半日程も經ちまして、酢よりあげ、適宜に切ッて用ゐますと、骨までも柔かて、私どもは誠に美しい樣に思ひます。季節のものですから、思ひついたまゝを一寸申上げます。

（五一）豆腐のカステラ　兵庫縣神崎郡　會員某報

豆腐を白布で絞りて水分を取り、又他の器に葛粉を溶かし置いて、前の豆腐と共に擂鉢に入れ、砂糖と鹽とを加へて能く擂り、混ぜ合せて黃粉にて色をつけ、之を燒けばカステラとなります。又之を燒かずして海苔の上に塗り、胡麻油て揚げ串にさし、醤油をつけつゝ蒲燒にすれば、鰻の樣でございます。

（五二）雪の朝　香川縣丸龜市　會員某報

蘿蔔をわさびおろしにて擂り、之を絞りて酢と醤油とを混ぜて鉢に盛り、中央の處を明けて其處に生卵を割ッて入れ其儘出すべし、客前にて鉢の中のものをよく混和して客に進むるなり。

之は長崎邊の料理だと聞きましたが、味はさのみ賞すべきものでもございませぬ、唯手輕で淡泊な料理でございます。名稱も知れませぬが、雪の積りたる朝に日の出た樣な趣きがありますから、假りに雪の朝とつけました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮廷録事

◉御救恤　去月十四日強雨のため廣島縣下被害尠からざる趣、憫然に思召され、罹災民御救恤として　天皇皇后兩陛下より金八百圓を下賜せられたり。

◉常宮周宮兩殿下の御仁慈　去にし六月大阪博覽會御覽の爲、兩殿下御西下の節、各地停車場に於て御送迎申上げたる本會々員等には、特に拜謁を許させ給ひ、御菓子さへ賜はりたりと承はる。今に始めぬ兩殿下の厚き御仁慈ひたすら感激の極みにこそ。

愛國婦人會記事

◉岩淵つなよ氏　本會宮城支部幹事岩淵つなよ氏は、本年四月より六月まで、僅に三個月の間に特別會員十六名、通常會員百十七名、贊助員四名の入會者を勸誘せられ、なほ炎暑をおかして日々募集に奔走されつゝありと、實に世にもありがたき篤志家なりと、同地會員より報じ越せり。

◉富樫のぶ子氏　石川縣能美郡小松町に住へる小學教員富樫まさ子女史は、本會石川支部幹事なるが、女史の祖母に、八十二歳になれる富樫のぶ子氏となんいへる老女あり。先頃奥村首唱者が、同町に巡回の折、四時間餘の長き演説を、平常老人の小用近き癖あるにも拘らず、一回も立たず熱心に傾聽せしが、其後再び同町に奥村首唱者が演説せし時は、更に五時間にわたりしも、前回同樣一度も席を去らず聽取せし結果、大に感激して、人々に入會を促し、且つ自分は老年の事なれば、今後十年間ながらふるは覺束なしとて、其家の裕福ならざるにも拘らず、會費を一時金にして納めたりとぞ。實に殊勝なる心がけにこそ。（能美郡長沼崎氏報告）

◉石川縣能美郡辰口村の奇特者　同村辰口小學校の小使に森勇助氏といふ人あり。奥村首唱者の演説を聞きて、深く本會の旨趣に感激し、其の妻女某に語りたるに、妻女も大に贊成し、即時入會を申込みたり。然れども、斯る身分の人とて、赤貧にして會費を出すべき道なし、由て夫婦相談の上、是迄の内職の時間外に別に夜の更るまで働き其餘分に稼ぎし金を積みて、年々の會費に充つるとにせりとぞ。あはれいみじき奇特者にぞある。又同じ村に粟崎何某とて生活貧きものあり、其妻ふゆ子氏本會に入會せんとを欲すれども、村内にて入會せる人々は孰れも財産家のみにて、貧き者の入會せんとは權衡を失ひ、身の程をも顧みぬしれ者よと笑はれんもうしろめたしと躊躇してありしが、其母なる老女は能く道理を辨へたる人にて、ふゆ子氏に向ひ云はれけるやう、國家に對して盡さんとする眞心以て入會するとなれば、世間より如何なる批評を受るも意に介するに及ばず、斯る惡しき習慣に從ふべき要やあると、ふゆ子氏を勸めて入會せしめられき。奥村女史其の報告に接し、いたく其の眞心をめでられ、自ら着替の浴衣を取出でゝふゆ子氏が母君に與へぬ。此の話を聞く者感ぜざるなく、奥村女史一行が宿泊してありし田川旅館の女中だち數名の者も、殘らず入會せりきとぞ。

◎奥村刀自山梨支部遊説日誌

六月廿九日　朝鰍澤町を發し西八代郡市川大門町に向ふ。富士川沿岸に至るに及び、市川警察署より白澤巡査、郡長代理として岡田郡書記出迎へられ、又網野警察署長、福島郡長及び幹事福島なほ子、會員權太小學校長夫人（此人は幹事長の命により甲府より出張）等途中に出迎へられ、十一時市川大門町に着す。福島郡長、山本郡視學、勝田小學校長等の案内にて、會場市川小學校に至り、午后二時より約三時間演説す。聽衆三百餘名即時二十二名の入會者ありき。閉會後甲府市に歸り談露館に投ず。此夜幹事長、幹事並に有志會員等の催しにて懇親會を開くべき筈なりしも、連日の疲勞のため辭退したり。又幹事長より甲府高等女學校生徒並に市内有志婦人にして曩に開會の節出席し得ざりし人々のため更に演説すべき樣請求せられたるにより、七月二日午後より開會の事に決定す。

同　三十日　午前九時甲府發列車にて石和に向ふ。幹事長代理幹事佐藤芳子並に酒向縣屬同行案内せられ、同廿六分石和驛に着す。袖山郡長同夫人、長田郡視學飯田萩野兩郡書記諸氏出迎はれ、直に同郡長宅に至る、一行は同郡長の好意を以て特に宿泊を許されたり。午後二時より同町小學校講堂に於て演説す。聽衆約四百名即時十八名の入會者ありき。本郡は袖山郡長が久しく刀自の郷里に就職し居られたる縁故により、夫妻大に盡力せられ會員も少からずと云ふ。警部長の命により一行に先ちて會場其他準備の爲出張せられたる岡巡査部長は東山梨郡役所所在地へ向はれたり。

七月一日　午前九時半石和驛を發し東山梨郡日下部町に向ふ。袖山郡長同夫人郡視學郡書記諸氏見送られ、郡長は殊に一行と共に日下部町迄同行せられたり。秀山郡長氷上郡視學鈴木警察署長山中郡書記外數名出迎はれ、一同の案内にて同町鑑背樓に入り休憩の後、午後二時より日下部高等小學校にて演説す。秀山郡長は刀自と同郷の人なるを以て紹介と同時に贊成の演説を試みられたり。朝來降雨ありて聽衆少く約貳百名にして十名の即時入會者ありき。秀山夫人は從來大に本會の爲に斡旋せられたりしに、先般不幸にして逝去せられ、入會者の數も減少の狀況なりしに今回の開會後大に增加の模樣なりと云ふ。此日甲府に歸る。

同　二日　六月廿九日所定の通り午後七時より縣會議事堂にて演説す。聽衆約一千名即時入會者八十六名ありき。縣廳市役所郡役所の重なる人々大に斡旋せられ、殊に幹事長、若尾副幹事長代理、幹事一同、警察署員、佐藤典獄市川稅務署長、權太小學校長、小林市長、木村技師其他知事官房職員一同並に警察部員等非常に盡力せられたり。

同　三日　午前九時十分甲府を發し歸京の途に就く。幹事長始め職員一同其他有志數十名停車場迄見送られ、甲府より日下部驛までは若尾副幹事長代、木村幹事外五名、東八代郡長酒向縣屬見送られ、同驛より初鹿野驛迄は秀山郡長及び郡視學等見送られたり。四谷驛には相馬評議員及び朝倉會計主任出迎はれたり。

今回遊説の結果當支部に於ける新入會者約貳百六拾名にして尚續々申込みありと云ふ。（完）

◎同石川支部遊説日記

奥村刀自は山梨支部の巡遊を了りて後、間もなく石川支部に出張し、燬くが如き炎暑をものともせず、其意氣の壯なると、金澤市のみにても前後九回の演説を試みられたる程にて、目下尚各地に遊説中なるが、知事以下各高等官諸氏の援助と、幹事長以下各職員並に沼崎郡長增田伊作米谷半平等の各有志家の斡旋により、到る處非常に好結果を奏しつゝありと云ふ。今例により逐次同支部に於ける景況をかゝぐべし。

七月九日　午前七時半新橋を發して西下す。大井川出水の爲汽車不通、遂に靜岡大東館に投宿す。

同　十日　午前八時二十分靜岡を發し島田驛にて下車、渡舟にて大井川を渡り金谷驛より再び乘車し濱松驛にて下車、一泊す。

同　十一日　午前五時十五分濱松を發し米原驛に着したるに北陸線處々不通の處あり、已を得ず下車一泊す。

同　十二日　午前九時十二分米原を發し北行す沿道の田畝、堤防、橋梁等破潰せるもの少からず。汽車は徐行して福井驛に至る。福井支部より一行通過せば便宜を與へよとの命によりて巡査一名來訪。乃ち石川富山兩支部巡遊の後立寄るべき旨を傳言し尚別に書信にて其旨を通知し下車せざるとに決し、更に進んで大聖寺驛に至る。園原石川支部事務員江沼郡會員、幹事松島都子會員柳川龜菊外一名及び郡書記貳名出迎はれ、園原氏は同車にて午後四時十分金澤驛に着す。村上幹事長、男爵夫人大島評議員、增永副幹事長代增永書記官、高安副幹事長、渡瀬幹事、會員牧野こと子市事務員富田芳子及び支部事務員佐藤由比乙村の三氏等出迎はれ、一同の案内にて同市片町旅館大うら屋に投ず。村上知事同館に待受けられ直に巡回の日割を決定す。當支部は知事書記官大島評議員の盡力と近衛家前田家松平家等の周旋の結果一行到着前日より俄に三四十名の入會者を得たりと云ふ。殊に一行の到着豫定より早かりしを以て支部員は俄に東奔西走斡旋せられ、各郡部手配のため、佐藤園原の兩氏は殆ど徹宵せられたりと云ふ。

同　十三日　午前渡瀬市長其他有志數名訪問せらる。午後本多横山の兩男爵大島師團長一戸旅團長、柳原裁判所長白上警部長等を訪問し本會の擴張に關して依賴する所あり。同三時より師範學校講堂に於て知事書記官參事官市長、各學校長敎諭及び幹事長副幹事長其他各學校女生徒等に對し演説す

夏の夕舟の行くを見て　評議員　子爵夫人　本多延子

波わけていつる小舟はよの中の夏をよそなるすゝみなるらん

遠樹蟬

立ちよらは涼しかるらん蟬のれの風にみたるゝ遠の木陰は

團扇

うちもおかぬ團の扇のすゝしさも秋にしならはたれもわすれん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎愛國婦人會岐阜縣飛騨國大野郡支部の景况

（副幹事　白川儀子報知）

秋津島ねの内はいふにおよばず、わたつみ越えし外つ國までも、この愛國婦人會の旨趣はかくれなく、日に〳〵盛に成りもて行くは、事新らしう云はずもがな。そも、山深きこの大野のあたりまで、いかにして會旨の廣まりしぞ。かへり見れば去年の八月なりき。塵なき山水の景色に目を樂しまし、靜に暑をのがれむと、都よりふりはへておはしましたる杉溪男爵の君、高山町にとゞまりたまふほど、夫人茂子の君（評議員）がみ志により、此の會の旨趣を廣く人々に告げ知せ、切に勸誘し給ひぬ。はやう書の上などにて、此の會のこと、つたへ聞き、遙に思ひはよせながら、志をはたさゞりし人々は、待ちえたる雨にあふ心地して、進みて會員に加りしこそ、げに此の會の始めなりつれ。

かくて日數過ぎ行き、こ萩が露もいとあはれなるほど、男爵の君は、うち日さす都に歸らんとし給ふ。時しも、もえんとする滿山の紅葉は、たづさへ給へる人々が眞心こもりし入會書の、其紙の色にもたぐふべかりき。夜寒を告ぐる虫の音も絶えはてゝ、野邊におく霜白う、峯の嵐の音もあやしと聞きつるほど、野山は時ならぬ六つの花にかざられ、見るからにすが〳〵しう、人の心も清らにうちしづまりたり。志よせつる會員たちは、云ひあはさねど、皆ひとしく都の消息を待ちわたりしが、かひこそありけれ、當大野郡長伊藤祐之の君が夫人、增子の君幹事として、いよ〳〵此の地に支部を設けらるゝにいたりぬ。會員等が喜びの内に年はかへりて、一月も過ぎつ。南枝の梅もなほ莟かたき二月のはじめつかた、本縣支部幹事長の君より、此郡の會員中にて、副幹事二名を囑託し給ふ。過ぎて三月のなかごろには、幹事の君たちと力をあはせて、ひとしほ本會の旨趣を廣むるにつとめしかひありて、會員の數とみにましたり。

茲に又、會の擴張につきて、いとたよりよき事こそあれ。そは花笑ひ鳥歌ふ四月の末つかた、東本願寺新門主臺下（本會　相談役大谷光演の君）此のあたりに、法の道芝しかむ爲に、わたらせ給ひ、高山別院において、御いとなみごとあり、其の第三日目に、高山兵談會員の願ひにて、死亡軍人の追弔會を行ひ、その遺族たちを廣く招きて、ま近に拜せしめらる。時にこの愛國婦人會員も、ひとしく參詣なすやうとのことなりき。かゝりしかば、當日（四月二十三日）は會員おの〳〵別院にと參り集り、かねて設けられし婦人席にて尊き御法にはあひぬ。御誦經の事などかたの如く終り、別殿において、遺族の人たちに、御門主の君御みづから仰言あり。皇國の楯となりて、潔く散りし其の名は、後の世かけての思ひ出ながら、又うち返し偲ばるゝ折のあるものを、今から有り難き仰せごとをうけて、うれしくも悲しくも、胸つとふたがり、袖にひまなき私雨も、げにことわりとぞ見えたる。伊藤郡長の君、遺族にかはりて答詞をのべ給ふ。終りて、新殿にて本會々員に、特に謁見をゆるし給ふ。會員一同歡びにたえず、二の間にひかゆる、まもなく出でましたり。人々が敬禮を受けさせられ、み言葉さわやかに、此の會の始め設けられんとするをり、盡しつるがまゝ、から山ふかき里までも、會員の數有るを滿足におぼす由のたまひ、御みづから、此の會の旨趣に贊する志の、根ざしいや深うなりしは、人も知るらん、去年の一月北の縣にて、軍人多く雪に埋れて消えし時、ひとかたならぬ惠みの露を垂れたまひし、我が大君の、大御心のいや深うおはしますを、今更ながら深く感じてこそとて、其の折の御有樣ども、いと細に仰せ給ふ。聞く人息もつきあへず。又時に逢ひて、ふたゝび來たらん折りは、こゝらのをみな等、皆此の會員にしもあるべきやう、人々力を盡さむことをこそと、の給ひ終りて、靜に入り給ひぬ。いひしらぬ感にうたれて、もたげしおの〳〵がまみのあたりには、もゆるが如き誠心の、いとしるきもおむかしかりき。なほ別殿において、兵談會より、茶菓の饗あり。郡長の君、會員一同に向ひ、いかで今の給はせしみ言葉を、深く心に刻みて、ひとしほ此の會の爲に盡されよとの給ふ。會員ひとしく、心を一つにして盡し侍らんと、かたみに誓ひて、やがて袂を別ちしは、霞の外に夕ぐれの鐘の消え行くほどなりき。

それかあらぬか、其の後はおのれとすゝみて、入會したまふ君も少なからず、いよ〳〵盛りならんとするけしきは、野山の緑の日ましに深うなり行くやうなるも、いと〳〵うれしき極みになむ。

國を思ふ心の花はあしびきの
山のおくにも咲きにほひけり

追記　大野郡支部の、かく速に盛になりしは、ひとへに伊藤郡長と同夫人增子の君とがみ志のふかゝりしによりてなり。さるにこのたび、にはかに職を辭して、西の京に歸らせ給ふにいたりしは、會員ひとしく惜みまゐらするところになん。されど、たて給ひし誠は、長へに消ゆるときなく、今日までのみ心づくしのほどは、深く感謝しまつるところにこそ。

◎廣島支部幹事長德久夫人の談話

此の程熊本縣より廣島縣に轉任されたる德久知事の夫人張子の君は曾て熊本に於て三千有餘人の會員を募集せられたる經驗あれば、本會擴張の上に模範とすべきあらんとて話を囑してありしが、先頃來父の病氣看護の爲に同地に歸省せる一記者は折柄宇品島に避暑中なる同夫人を訪問し、其の經驗談を聞取りて通信せり、今其の要領を左に掲ぐ。

○募集に就いての注意　慈善事業と申すものは委く其の事業の趣意を述べて會得せしめ、決して強制がましき嫌なく、成るべく任意に先方より進んで入會せしむる樣に工夫せねばなりませぬ。御つきあひに、いや〳〵ながら會員となる樣な風では決して會の發達は期せられまいと思ひます。そこで會の趣意を委く說明すると同時に、會費を容易く出すとのできる方法が必要で在います。元來日本の婦人は僅の金でも主人の厄介にならねば出せぬのですが、慈善費まで主人に厄介をかける樣では婦人の本分は盡されまいと思ひます。一家の主婦は一家に於ける經濟上の母でありますから、心がけ次第では主人の厄介にならずとも、慈善費位は裕に支出するとが出來ると思ひます。私は人に入會を勸めます時に、貴女は月に幾度髮をお結ひなさるか、月に一度結髮を延ばして、其結髮料を慈善費にお當てなさい、又御家の反古代は何位ありますか、之を貯へて慈善費に供しなさい、一個月僅に八錢四厘の用意さへあれば、一年には壹圓になりますから、それだけで愛國婦人會の通常會員になられるのですなどゝ、懇ろに勸誘しますと、大抵の婦人は納得して入會されます。熊本では多く此流儀で會員を募りました。

○會員の衣服に就いての注意　本會は質素を旨として、慈善を勵むが趣意でありますから、熊本では集會には一切綿服を着る事に定めまして、儀式の時でも木綿の紋付に致し、冬でも上下共に木綿にし、帶までも質素なものを用ゐました。幸に其風が一般に傳はりまして、何の集會でも木綿服の婦人ばかり見受ける樣になりました。隨ッて集會があッても衣服に就いて心配する樣な事もなく、自然と手輕く集會が出來る樣になりました。

○會員の特權に就て　國家的事業に盡力せらるゝ會員の人々は社會から相當な特權を得べきは至當な事であると考へます。故に熊本では何んでも其の機會ある每に、成るべく會員達に特權を得しむる事に勉めて居りまして、且つ一方には成るべく婦人をして觀察力を擴め、社會の事に注意する樣に勸誘して居りますから、先年大演習の時には堀內本會相談役が貴紙に詳報された通り、愛國婦人會々員の徽章を帶びた者は特別席を得て大元帥陛下を奉迎し、其折の觀兵式にも特別席を與へる等の事を致しました。又招魂祭は地方では非常に盛んなものでありますが、本會々員は特別の扱ひを受け、遺族と共に參拜したり、遺族を慰める爲の盡力をしたり致します。其他何事でも婦人が出る機會には、本會の徽章を帶びた者は相當な特權と待遇とを受ける事になッて居りますから、會員は益々增加する樣になつて來ます（未完）

雜報

◉附錄寫眞　本號の附錄としたる寫眞は去にし六月十四日三重縣津市に於て、古莊幹事長森大野の兩副幹事以下、同市並に安濃郡會員と各郡幹事諸氏會同の節撮影したるものなり。

◉宮崎婦人會の製絲　宮崎婦人會岩男會長始め同地紳士の夫人令孃等十餘名相圖りて、先日來宮崎勸業物品陳列場樓上に於て製絲に從事中の由なるが、此の製絲は二つ入繭を買入れ之を紬絲に製するものゝ由にて器械は紬絲採新器械なりと。而して其目的は、一は婦人會の事業として此の絲を以て織物を製し、賣却して全會維持費並に救恤費に充て、一は婦人をして職業を自覺し家政の補助を爲すに至らしむるにありといふ。美擧と謂ふべし。（編者曰ふ記事輻湊已を得ず他の報道を省略せり讀者諒之）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

婦人最良藥

子宮病血の道 產前、產後の諸症にて種々の藥を用ゐて其効なく久しく病床に苦しむ人は本劑を試みよ

●如何なる難病も二三週間に全治す

中將湯

●詳しき効能は大廣告の時御注目ありたし

（定價 一日七錢五厘、三日廿錢、一週四十五錢 二週八十五錢、三廻り一圓二十五錢）

●本舖へ御注文の方は病人の容躰御申込あれ

本舖 東京日本橋通四丁目 津村順天堂 大阪堺筋鹽町北入 津村順天堂

中將湯は全國各藥店にあり

●生徒募集

○本科一學年缺員あり志望者は至急申込むべし

○九月十一日授業開始

麹町區下二番町 成女學校

全國各學校徽章賞牌ハ弊店ノ獨專業ニ有之候 價格表ハ御報次第呈送ス

日本帝國徽章商會 東京市麹町區飯田町三丁目 電話番町八百五十七番

●女生徒募集

來る九月一日より授業開始す裁縫科及和洋割烹科共補缺募集(規則入用は貳錢郵券を要す)

東京神田淡路町二ノ九 女子裁縫和洋割烹 專脩舍

●女生徒募集

●日本畫科●西洋畫科●彫塑科●編物科●刺繡科●造花科●裁縫科

以上各科共缺員あり入學志願者は來る廿五日限り願書差出すべし

東京市本郷弓町二丁目 女子美術學校

●日本料理科●西洋料理科●支那料理科各科共九月授業開始す志願者至急申込あれ

女子美術學校附屬 料理法講習所

第五回內國勸業博覽會 受領 第貳等賞 第參等賞 褒狀貳通

營業販賣品目 半ゑり 帶あげ 下締 帶止 浴衣

すゝめ形 ゑり治形 まげ入ゑり治

新橋竹川町十二 電話新橋二〇二七

婦人ふるちの藥

定價一貼五錢三貼十四錢五貼廿三錢七貼三十二錢

一此藥劑は婦人血の道一切の藥にして清血を補ひ古血をめぐらすとかんようにして少しも脾胃にさわるとなく血を下すにてはなく血をみちびき通ずる藥なり第一月々めぐり少き婦人はたッぷりと見るなり數年古血滯りある婦人は其のふるちのかたまり殘らずつうずるなり●○南まけづつう目まひによし○ふるちとゝこほり○ながち○しらち○手あしゝびれ○血しやく○ひゑるときさしこみいたむに功あり○むねこしいたみ○つぎむしによし○さんごあとはらのいたみはいかほどつよきいたみにても一ト包にて功あり○さんごわるちのとゞこほりに用ひて功あり○猶能書にくわしくしるす

本家製藥所 東京市本所區東兩國横網町一丁目 齒磨店 伊勢吉本店（電話浪花二七五八）

●料理法講習會 會員募集

●來る九月十六日より和洋及支那料理講習を開始す志望者は至急申込むべし

麹町區下二番町 成女學校

預金利子

貯蓄預金	六ヶ月以上 年	六分
定期預金	一年	六分五厘
小口當座預金	百圓に付 日步	一錢五厘
當座預金	百圓に付 日步	一錢二厘

帝國貯蓄銀行 銀座一丁目河岸通り 電話新橋八一大番

本郷一丁目 本郷支店　飯倉四ツ辻 飯倉支店　赤坂表一丁目 赤坂支店　四谷大通り 四谷支店　南品川一丁目 品川支店　横濱吉田町 横濱支店

牛込神樂坂 神樂坂支店　神田須田町 須田町支店　兩國米澤町 米澤町支店　淺草雷門前 吾妻橋支店　代理店 日本橋坂本町 田中銀行

●一錢以上何程にても預り最も御便利に取扱申候 ●貯蓄預金の預け金は毎月分の利子を付け申候

袖珍名著文庫

一編 蝶夢作 幸田露伴先生校訂 芭蕉翁繪詞傳 附 句集

二編 近松作 饗庭篁村先生校訂 近松淨瑠璃三種

三編 秋成作 芳賀矢一先生校訂 雨月物語

四編 曲山人補 小三金五郎 尾崎紅葉先生校訂 娘節用

五編 源隆國著 藤岡作太郎先生校訂 今昔物語選

六編 石川雅望作 關根正直先生校訂 近江縣物語

七編 狂言記選 芳賀矢一先生校訂 狂言二十番

全部百冊

毎編紙數約二百頁毎編美麗口繪入 正價一冊金廿錢●六冊金壹圓十四錢●十二冊金貳圓廿二錢●廿五冊金四圓六十錢●五十冊金九圓●全部百冊金十七圓五十錢●上製一冊ニ付金八錢増●郵稅各四錢

東京 富山房

醫院案內

院長 醫學博士 ドクトル・メヂチーネ 榊順次郎

婦人科產科榊病院

診察午前 入院隨時 東京麹町三番町卅三 電話番町三百九十五

●水原產科婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

耳鼻咽喉科院

院長 ドクトル 山上兼輔

四谷區本村町三十七番地 電話番町七三〇（士官學校前）

診療時間 毎日午前八時より十二時迄午後六時より七時迄○日曜大祭日は午後休療往診の需に應す

東京小兒科院

院長 醫學博士 瀨川昌耆

駿河臺西紅梅町（電話本局一九五五）

東京產科婦人科病院

院長醫學博士 濱田玄達 副院長醫學士 辻高俊

神田駿河臺袋町（電話本局壹四三四）

內外科泌尿生殖器科

醫學博士 佐藤進 醫學士 佐藤佐 同 佐藤恒久 同 佐藤達次郎 醫學博士 田中苗太郎

醫學士 阿久津三郎 醫學士 吉井明七 醫局員 菅野徹三郎 同 前田利雄 同 笠間大作

各科專門ノ醫士分擔シテ診療ニ從事ス

毎週月水金午後一時ヨリ貧困者ノ爲メ施療部ヲ設ク

順天堂醫院（本郷區湯島五丁目お茶ノ水）電話本局三六九番

◎瘰癧 切開ヲ要セス シテ根治ス ◎最新療法 ◎心臟病 ◎脚氣 專門

千葉內科院 神田區三崎町三ノ一 西通リ二十五

診療 內外科眼產婦人科耳鼻咽喉科皮膚病梅毒痳病

院長出診時土曜日午後、入院診斷之上隨時應需

外來入院隨時 深川平久町角 深川養生病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特約販賣店

◎東京堂　神田區表神保町三番地

◎東海堂　京橋區銀座四丁目

坪内博士文學校閲

通俗世界文學

全部五十冊氣冊正價廿錢●六冊壹圓拾四錢●十二冊貳圓廿貳錢●廿五冊四圓六拾錢●五十冊九圓●郵税毎冊六錢

●新刊●

中島孤島君編

第六編

沙翁物語

ハムレット・ヴェニスの商人

英獨諸大家畫七葉挿入

第一篇 ミルトン	失樂園物語
第二篇 沙翁物語	マクベス外二篇
第三篇 ホーマー	イリアッド物語
第四篇	水滸傳物語 上卷
第五篇	水滸傳物語 下卷

發兌元　東京神田裏神保町　富山房

袖珍名著文庫

第八編　山家集　西行法師詠　幸田露伴先生校訂

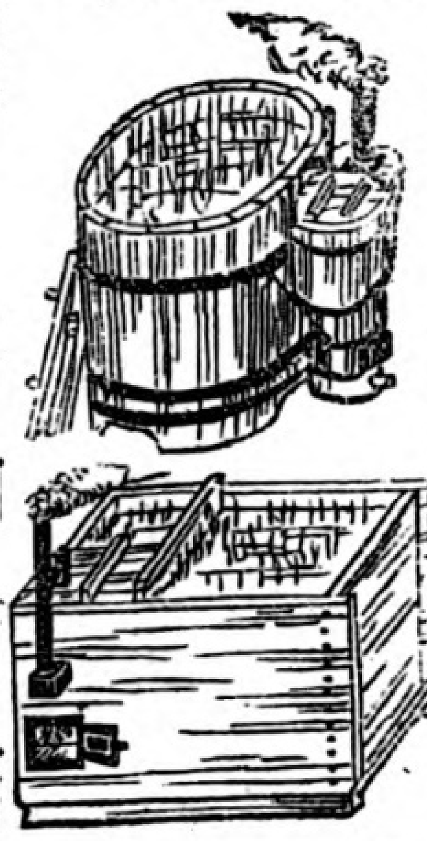
第九編　風流志道軒傳　風來山人作　饗庭篁村先生校訂

第一編　芭蕉翁繪詞傳　附句集
第二編　近松淨瑠璃（三傑）
第三編　雨月物語
第四編　小三金五郎娘節用
第五編　今昔物語選
第六編　近江縣物語
第七編　狂言二十番

正價一冊廿錢　上製廿八錢　郵税四錢

發兌　東京　富山房

專賣特許機鑵式据風呂

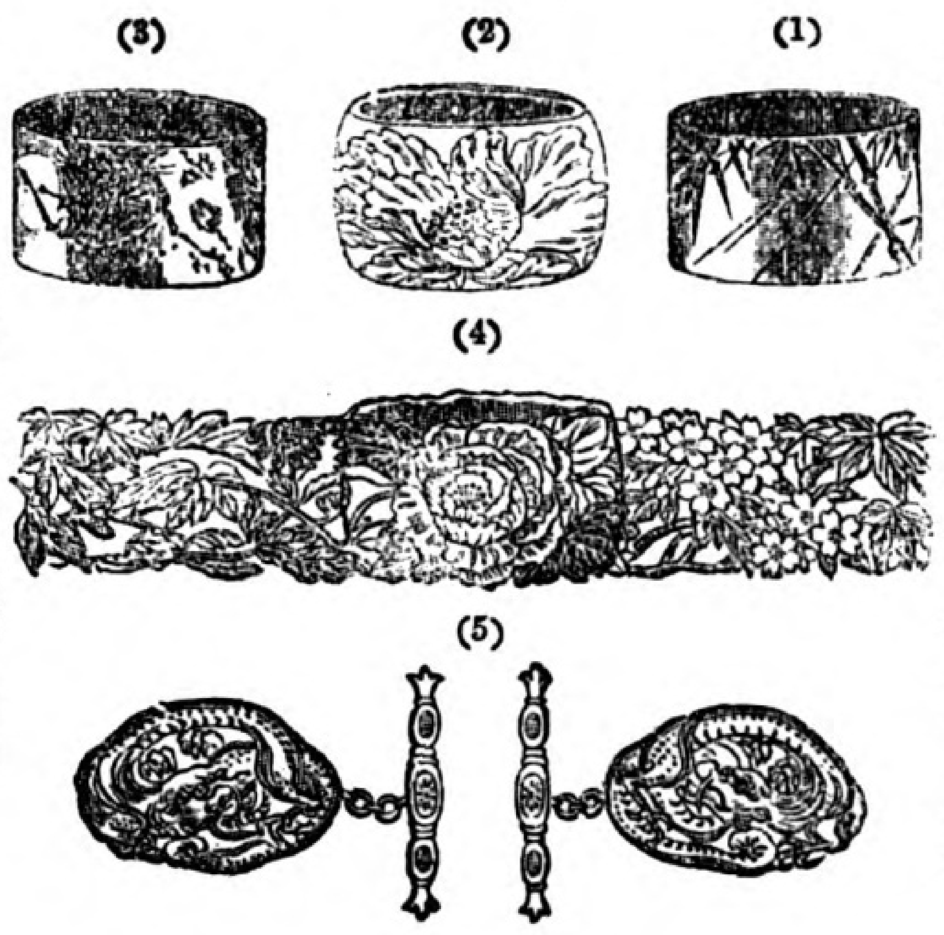


弊店多年專賣特許竈發賣致居處今般專賣特許据風呂製造發賣開始仕候間益々御引立程伏て奉懇願候

日本橋區蠣売町貳丁目十五番地

名和商店

新製指環及手釦



(1) 價廿一圓八拾錢……廿二金三匁付片切刻
(2) 價廿七圓八拾錢……同　高刻
(3) 價二拾圓八拾錢……同　片切刻
(4) 價五拾六圓五拾錢……同四匁付……高刻
(5) 價廿二圓九拾錢……十八金三匁付高刻

時計寶玉貴金屬美術品及銃砲火藥商

東京市京橋區尾張町貳丁目拾六、七、八、九、番地

天賞堂

電話新橋（特三三三　三一五三）

天賞堂出張所々在地　東京市神田小川町●横濱市●名古屋市●大坂市●廣嶋市●熊本市●長崎市●小樽市

衛生印

酢

●鶴印は色澤濃厚香味醇和

●龜印は香味淡泊酸氣强し

右は本社の特製にして夏期炎熱の候と雖とも腐敗變質の憂なく衞生上有効の良品に有之候

東京市本所區柳島横川町三番地

日本醋酸製造株式會社

（電話下谷一四八三番）

同市日本橋本材木町一丁目十五番地

販賣所　東京市内　内田商店

（電話本局二一〇六番）

●地方賣捌所御望の方は本社へ直接御照會あれ

正四位勳三等醫學博士　三宅秀先生著

大日本女學會發行　（日本女子大學校教科書）

家事衞生

總クロース綴ぢ金文字入り菊判二百四十頁定價金六十錢郵税金六錢

此書は文部省學校衞生顧問内務省中央衞生會委員元醫科大學部長なる三宅博士が文部省の囑託により講義されたるものなり書中に衣服食物住居育兒看病の五編ありて我國一般の民度に應じ何れの家にても實行に差支なき樣懇切に說示されたる世に類なき家庭主宰者の寶典なり

●賣捌所　東京神田區一橋通町七　有斐閣

第三卷第八號　八月十五日發行

をんな

毎月一回十五日發行

毎號紙數百四十頁

定價十五錢全國無遞送料

本誌の特色

◎本誌の目的は、婦人をして常識に富み、世態に通じ、以て其本分を完うせしめんことを期するに在り。されば其所說、新に流れず、舊に泥まず、一宗一派に偏らず、而も世に阿りて、徒らに俗流の歡心を迎へず。◎本誌は輕佻浮華の弊風を避けんが爲に、表紙口繪など、不要の裝飾を省きて、專ら記事の精選を努む。◎本誌に收錄する所は、普通の婦人雜誌に掲載する、文學上家政上の記事のみに止めずして、●科學の大意を掲げて、學理の概念を得しめ、●和漢洋名著の綱要を掲げて、諸書の涉獵に便せしめ、●法制理財等の事を平易にものして、世態に通ぜしむ。◎本誌は、野卑なる言語及び劣等なる戀愛文字を避け、下品なる廣告を掲げず。◎本誌は勤儉貯蓄の美風を奬勵せん爲に、毎號懸賞貯金切手を附して、其模範を示す。◎本誌讀者は、みやび會員となり、其歐・文を本會に送附して、名家の批評添削を受くることを得。

發行所　麴町區下二番町三七　電話番町（一三三〇番）

大日本女學會

愛國婦人「をんな」並に女學講義廣告取扱

神田區千代田町　博報堂　電話本局一四四番

京橋區尾張町　弘報堂　電話新橋八五一番

京橋區八丁堀中町　一星社

日本橋區上槇町　萬年社　電話本局一一一五

本店卸部　東京日本橋區長谷川町貳番地　美濃磯本店

電話浪花二八五九
電略ミイソ

小賣部

本郷區本郷五丁目十五　電話下谷二四一五　美濃磯本郷支店

淺草區諏訪町廿貳　美濃磯淺草支店

芝區新櫻田町九番地　㊢　小田商店

牛込神樂坂町二丁目八　⌂内　伊澤商店

四ツ谷傳馬町一丁目　⌂内　伊澤支店

明治三十六年八月廿五日發行（毎月十日廿五日二回）

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

發行所　大日本女學會内

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國圖書館
IMPERIAL LIBRARY

明治三十六年八月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

愛國婦人第三十六號附錄

愛國婦人會三重縣支部職員寫眞

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN